

大阪日々新聞紙

十三号

東京傳馬町宇屋敷神田福田大工の棟梁

何某が毎夜土時と覚ると現はるは  
坊主が現はると出て女房の夜着の側  
より見ると小いやうに事をなす  
顔や口もと甜短を共々に粘り  
睨むは女房キヤマを敬馬に  
心神疲まの絶かして一晚親を  
治すも走りし其夜何の事も  
あまの交最早妖魅のまを  
家も度とい再び出で是の事  
大変と皆おちよつて百物語り  
狐狸の物の仕業かとか持や  
と無陀鏡をばらばら事ある  
と報知六百三三の記

花源堂



大阪日々新聞紙 13号 文庫10-8068-11